

清泉の「キリスト教ヒューマニズム」 誕生の経緯をめぐって

— J . H . ニューマン — + 田中耕太郎 + 内山八寿子 —

清泉女子大学史料室特別顧問

有光 隆司

!

**それでは記録上、本学において
「キリスト教ヒューマニズム」という用語は
いつの出現するのか？**

本学における「キリスト教ヒューマニズム」 という用語の出現＝1967(昭和42)年

「建学の精神 今と昔」 学長 内山八寿子
『清泉女子大学学生新聞』第40号 1972(昭和47)年11月7日

* 清泉女子大学第3代学長(1967年4月～1973年3月)

ポイント1

本学における「キリスト教ヒューマニズム」
という用語の出現＝1967(昭和42)年





ジョン・ヘンリー・ニューマン

『新カトリック大事典』 第3巻 研究社 2002年8月

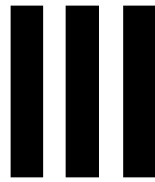
ポイント2

- **列福** 2010年9月19日 列福決定者 ベネディクト16世
- **列聖** 2019年10月13日 列聖決定者 フランシスコ
- **教会博士** 2025年11月1日 教会博士決定者 教皇レオ14

- 『**大学の理念**』 Idea of a University (1852－1858)

* ニューマンがアイルランド・カトリック大学初代総長前から総長職にあった7年間との間に行なった大学論に関する講演、講義、エッセイ等をまとめたもの

*



田中耕太郎



『現代随想全集』 第27卷 (田中耕太郎, 恒藤恭, 向坂逸郎集) 東京創元社 1955年1月

ポイント3

**田中耕太郎は
1942年から1950年まで
「財団法人清泉寮」の理事長（第3代）を務めた、
「清泉女子大学」初代理事長であり、
J・H・ニューマンの大学論（『大学の理念』）を
本学でも適用すべきと考えた
キリスト教・ヒューマニストであった。**

IV

Sr.内山八寿子



ポイント4

内山八寿子はJ・H・ニューマンの研究者であり、学園紛争が日本全国の大学で激化していく60年代後半、ニューマンの大学論を援用しつつ、学生たちとの対話を通して、「キリスト教ヒューマニズム」という明確な言葉で本学の建学の精神を伝えた最初の聖心侍女修道女であった。

まとめ

清泉女子大学の建学の精神は1967年4月、内山八寿子第3代学長の時に「キリスト教ヒューマニズム」という明確な表現を得て使用されることとなったが、その背景には、J・H・ニューマンの『大学の理念』に見られるリベラル・アーツとしての大学観が大きな理論的根拠の一つとしてあったと考えられる。

またその先達として、本学の初代理事長であった田中耕太郎の存在、およびその大学観についても、ニューマンとの関連から、あらためて注目されてよいのではないか。